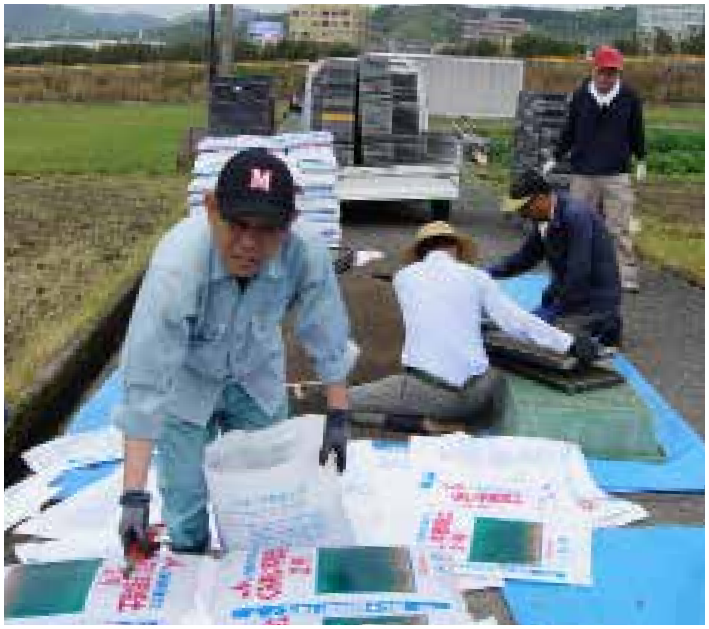
平成 23 年 6 月 1 日
第 49 号

# やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

## 地区の稲づくり始まる



大量に搬入された資材を手作業で処理していく（5 月 8 日）

田植えの準備が始まりました。苗を育てる「苗床」を作る作業です。苗箱にシートを貼り、泥を入れ、籾を撒き、大事に大事に育てていきます。6月の始めには田んぼに水が張られ、トラクターが走り回り、あっという間に田植えの準備完了。田植えの時期はもうすぐ、秋の実りに向けての重要なステップです。

八方原地区の水田は約 30 ヘクタール。この面積に使われる苗箱は約5000箱です。以前はそれぞれの農家が作業をしていましたが、農業法人となった現在は協同作業として、作業できる人が中心となって行われています。

## 環境向上と農業施設の改良

### 八方原の環境を守る会の総会開催

5月18日、八方原の環境を守る会の総会を行いました。今回が第5回目の総会となり、平成19年度に始まったこの事業の最終年度となります。会員の皆さまの多大なるお力添えで、ここまで運営できましたこと、あらためて感謝申し上げます。

平成22年度は新加入の会員があった関係で対象面積が拡大しました。その結果交付金額も約16万円増額しました。支出では協同作業日当も資材などの購入費はが前年度より増額していますが、活動が活発であったことが直接影響しています。一方事務費用は2割程度減額されています。

平成23年度も、従来同様環境保全に取り組んでいきますが、農業施設の水路の補修に力を入れていくことになりました。水路底部の水漏れなどが報告されており、専門家と協議しながら予算の許す範囲で実施していきます。また10月に行われる山口国体に向けて花壇の手入れにも励みます。

八方原の環境を守る会平成 22 年度決算書

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|---|---|---|---|
| 金額（円） | 摘　要 | 摘　要 | 金額（円） |
| 1,200,000 | 交付金 | 協同活動日当 | 275,582 |
| 1,744 | 雑収入 | 購入費 | 555,096 |
| | | 委託料 | 109,500 |
| | | 役員報酬 | 110,000 |
| | | 事務費 | 151,596 |
| 1,201,774 | 合　計 | 合　計 | 1,201,774 |

## 身土不二極めっけ

住んでいる土地と健康は切っても切り離せないという考えが、「身土不二」です。その地で育つ植物が最良の食べ物とも言い換えられます。ところが、身土不二を本当に実現させた料理が注目を浴びています。

東京の青山でフランス料理レストランのシェフ成澤由浩さんは、テレビ番組でもお馴染みの日本中にその名を知られた料理人です。彼が開発した料理は「土のスープ」です。土のついた牛蒡を上手に加工して黒いスープとして提供しています。

「野菜づくりの基本が土であるということはその土を頂くことが、究極の料理ではないのか」長年の思いを関係者の研究と調査の結果、安全でおいしいスープとしてでき上がったのだそうです。「土はいきもの、冬と春とではその味は変わります」

青山にあるル・クレアシヨン・ナリサワまで行かないと味見はできないようですが、料理人の意気込みを感じますね。この八方原の土はどうでしょうか。

# 見守り隊の皆さん、ありがとう

小学生の下校時の安全を見守る「見守り隊」は毎日当番で児童の安全確保に努めています。

小学生と見守り隊のメンバーの交流会が5月21日、八方原公民館で行われました。下校時には姿は見るものの実際に話をする機会はそう多くありません。このような交流会がお互いの距離を縮めてくれるでしょう。

当番とはいえ。毎日のことです見守り隊の活動も肩の力を抜いた楽な気持ちで長く続けていただくことが大事ではないでしょうか。



子どもたちの柔らかな手で、肩揉み

# 地域防災に備えて



2トンものまさ土を土のうに詰めて

梅雨入を間近に控えて、八方原消防組は、定期訓練と防災用の土のうづくりを5月22日に行いました。

土のうづくりは毎年行っています。これまでは新幹線口にある市の下水処理場の敷地に土のうづくりを行ってきましたが、今年からはまさ土を市から提供してもらい、現地で作業ができるようになりました。

朝市広場の敷地をお借りして。作業を行いました。2トンのまさ土でおよそ100袋の土のうを作り、地内の6カ所に分けて、災害時に備えることとになりました。



消火栓は全て、マンホールを開け、バルブを開いて。消火用の水の確認

ここ数年、梅雨の末期に局地的な豪雨が山口県内を襲ってきています。大雨を防ぐことはできませんが、被害を最小限に留めるための努力は必要です。3月11日に発生した大震災の中で小学校児童の犠牲者が、非常に少なかったことに多くの関係者が注目しています。繰り返して行われていた防災訓練や、避難ルートの確認など真剣な取り組みが大人たちとは違っていたのではないでしょうか。

土のうづくりだけでなく、消防用の施設点検も実施し、消防ポンプの運転を行って異常のないことを確かめました。

# ふれあいサロンでお楽しみ

各地域で行われている高齢者のためのふれあいサロン。八方原地区でも当初から様々な形で高齢者の交流ひろばとして、運営されてきました。

5月19日、公民館の一室には笑い声が上がっていました。テーブルを囲んで、ニコニコ顔が輝いていました。

家でじっとしているのも、一人だけの贅沢な時間かも知れませんが、言葉を交わすことで大きな喜びがあるかも知れません。



他愛のない会話も楽しみのひとつ

# 参加しよう　ふしの夏まつり　7月30日